

## 第3回 これからの長野県教育を考える有識者懇談会 発言概要（7/4開催）

### ○「探究」「探究力」「well-being」について

- ・「探究力」という表現は、力を測るというニュアンスが強くなり、力を身につけること自体を目的とすることにつながる。何かを明らかにしたいという気持ち、興味関心そのもの、いわゆる「探究心」が大事だという視点を再確認したい。
- ・「探究」がどう「well-being」に繋がっていくのか、関係性をもっとわかりやすく示せれば。「well-being」の達成は、未来を見据えた視点になりがちだが、今達成するためにどのような「探究」が必要なのかという整理ができれば。
- ・個人だけでなく、**社会の well-being も達成するという打ち出しは重要**。様々な事情で探究心を持ちづらい子どももいる。多様な背景のある子どもたちを受け止められるよう、地域も含め良質で多様な学びの選択肢がある社会を目指してほしい。

### ○計画の基本理念

- ・探究の主語は子どもだけではない。大人、特に先生も**“共同探究者”**として、今までのことを問い直し新しいものをつくっていくというメッセージが反映できれば。
- ・探究を中核に据えるためには、学校、先生の役割が大変重要。**先生の well-being も達成できなければ子どもの well-being は達成できない**、といった視点も入れられれば。
- ・「探究」の必要性はこれまでも言われてきたかもしれないが、「探究」を理念に据えることは、**“知識・スキルの習得”から、“対話などから自分自身を作り出し社会を変えていくプロセス”に注目する「学習観」の転換**を示すこと。この打ち出しはこれまでになく、学びの現場としても大変良いことと思う。
- ・学校は、他者を介し自分の良さに気づく、対話を通し関係を深める場。どこでもいつでも学べる世の中で、**学校の“他者性”**といった、**学校が学校である意義、学校が欠くことのできない本質も理念に反映**できれば。
- ・理念の共有には、**教育が目指す人材と社会が求める人材について、様々な関係者とすり合わせる必要がある**。
- ・学校現場でも、「探究」をどう落とし込むか模索している。**シンプルでストレートに、心を揺さぶるような表現**を用いてほしい。
- ・例示の**“出る杭を育む”**という表現は面白い。学校の同調圧力という大きな課題への問題提起にもなる。

### ○計画構成について

- ・計画の読み手を意識したうえで、**コンパクトにまとめた構成**で県民に提示してほしい。
- ・様々な立場の多くの方に、**コンセプトや方向性、やりたいことを端的に共有**してもらうためには、これまでのような分厚い冊子である必要は無いのではないかと。構成を大胆に変えてもよいのでは。

### ○その他

- ・学校単独ではなく、**県全体で「探究」を進める体制づくり**を支援してほしい。特に、**学校と地域、専門人材を繋ぐコーディネーターの存在は必須**と思う。
- ・教職員はオールマイティではない、外部の力も借りて、**教職員自身も「探究」を学び、探究学習を進めることに集中できる環境が必要**。